

紙の博物館
公認キャラクター源太さん



© かわぞえ うどろ

皆の衆、ワシは土佐典具帖紙を発明したことで知られる吉井源太じゃ。今回はワシが七色紙の誕生にまつわる伝説について紹介するぞい。フオッフオッフオ。

- ① 天正末期のことじゃ。長宗我部元親の妹養甫（ようほ）は、波川玄蕃清宗に嫁いでおったが、清宗が謀反の疑いで切腹となったことにより出家し尼となり、親戚関係であった安芸国虎の次男家友と共に成山の地に移り住んでおった。そんなある日、伊予の国の新之丞という旅人が急病で行き倒れておった…



- ② 養甫尼と家友の看病により程なく回復した新之丞は、せめてもの恩返しにと養甫尼と家友に紙漉の技術を教え、養甫尼の草木染めの技術を加え七色の紙を漉く手法が完成したのじゃ…



- ③ 七色紙は山内一豊に認められ將軍家への献上品となり土佐和紙は全国に名を高めたのじゃ…

- ④ 数年の月日が流れ新之丞は伊予の国へ帰ることとなったある日のことじゃ…



- ⑤ 土地の人々は新之丞を偲び地蔵や祈念碑を建立して供養を行ったそうじゃ。



- ⑥ 紙漉技術の流出を怖れた家友は、やむなく…



© かわぞえ うどろ

何とも悲しい伝説じゃが、その昔は産業の流出は一国の将来にかかる一大事であったのじゃな。三人の辛苦の結晶である七色紙の技術は、様々な職人により改良が加えられ、土佐和紙の礎となったそうじゃ。